

# まっかぜ

平和学園小学校  
同窓会連絡誌

茅ヶ崎市富士見町5-2  
電話 0467 (82) 0093

同窓会の皆様お変わりございませんか。原稿を前に創刊号より目を通しました。創立以来四十年の歲月、それぞれ時代に良き先生方、親しい級友にめぐり合い、環境は変化していますが、松風のささやきに育てられ少人数で温かい心のふれあう学園をいつまでも願ってくださる皆様の思いを強く感じました。社会人となられた皆様か立派に成長され遠く海外にまで発展して活躍されている姿に目を見張りました。

今年には二つの大きなお知らせがあります。一つは十三年の長期間勤務下さった横山先生のご退職です。小事にこだわらずひょうひょうとし、夜の更けるのも忘れて星の世界へと夢を導

いて下さった先生、楽しい理科、聖書のお話と伝道に励まれた先生、同窓会の皆様の一人一人に深い印象を刻みこまれ、温かく親しみ深い先生でした。私にとっては五年間教頭として助け

て理科と聖書のご指導をいたたいしております。多年のご苦勞に心から感謝を捧げたいと思います。二つ目は小学校講堂及び校舎建築第一期工事の施工です。創立以来礼拝の場として永年使ってきた講堂を今年三月まで小学校礼拝堂兼講堂として使用して来ました。今年三月突然林間学校理事会より、老朽化しているのて撤去するようにとの要請があり、やむなく春

## 夢のある 小学校講堂校舎建築に向って

小学校長 笠野 欣 二

支えていただきました。いつもお互いの気心がわかり、三月二十一日、古い講堂を明るいユーモアをもって私の短所を補って下さり、二人で一体となれた五年間でした。後をお願いすることが出来ませんでしたが、本年度から週二日間講師として

休みに取り壊されました。愛するPTAOBに同窓会の有志の方も加わって最後のお別れ礼拝が持たれました。

小学校では四月の新年度以来、礼拝を朝礼台前、昇

降口ホール、教室、土曜は記念講堂で続けておりますが、キリスト教学校として礼拝の場のないことは、建学の精神にかかわる重要な問題であります。したがって五月の理事会及び評議員会において「小学校講堂他建築の件」が承認されました。第一期工事より着手し、現六教室はそのままとし、西側の職員室等を取り壊し、その跡に講堂、職員室等が建築される予定です。

去る六月八日同窓会の大石会長、大林副会長さんにご来校いただき、建築のお話をすると共に、同窓会の皆様及び現保護者の皆様の募金をお願いしたい旨相談しました。大石会長より各クラス幹事の代表会、また各クラス会を開いていたので建築に対するご理解を広めて下さる予定です。設計は三十四年度卒業の「株式会社洋建築企画」代表取締役山口洋一郎氏に依頼いたします。学園長の、夢のあ

前小学校長  
小杉英夫先生御昇天

る小学校校舎という理想にふさわしい設計をして下さるものと期待しています。建築内容・時期等が決まりましたら、皆様のお手元に具体的な内容と募金依頼の趣意書をお送りさせていただきますますので、温かいご協力を心からお願い申し上げます。

先生は昨年十月二十九日ご昇天されました。四十年記念式典での功労者としての表彰を前にしてのご昇天だけに残念でした。先生は昭和十二年から平和の先生になられ、小学校長は五十二年から四年間でした。ご退職後も将棋クラブのご指導をして下さり、地域の文化活動にもご尽力されました。お年は六十二才。安らかに眠り下さい。

### 小学校講堂建築に思う

同窓会長

S 25卒 大石 茂生

敗戦の傷跡が生々しい昭和二十二年、焼け野原だった東京から転校した先が平和学園小学校だった。白十字会林間学校の寮生を含めて三十名足らずの、しかも一組だけという小さな学校であったが、周囲の松林や時折聞こえる潮騒の音が爽やかな心地好い環境だった。

母親に連れられ、初めて日曜学校へ足を運んだが、既に老朽化した講堂であったと記憶する。それ以来、中学校を卒業するまでの五年余の間にこの講堂には数多くの想い出を残したものだ。毎朝の礼拝、音楽の授業そして学芸会など。

一千名を超える我々卒業生の一人一人がぎざんだ想い出を残したこの講堂が今年三月に突然取り壊されたことはご承知のとおりである。理由は林間学校理事会

で余りにも老朽化して危険なため撤去せよとのことであったと聞く。

それ以来、在校生は、屋外や教室で礼拝をする有様だそう。しかし、在校生総数一三〇余名と、五年前の一〇〇名に満たなかった状況よりは改善されたとは言え、高等学校の千五百名とは比較にならず、経営面からも新たに小学校の講堂を建設することは困難なように思われた。

ところが、去る五月末の理事会において「小学校講堂他建築の件」が提案され全員一致で承認されたことを聞かされた。早速学校側へ詳細を問合せると、二億円の予算で建設を計画中のこと。しかし、小学校の現状ではとても建築資金を手当てすることは大変なことではあるが、目下中断している一貫教育を再び実現するためにも、関係者の協力も得て実行に移したいとの説明だった。残念乍ら、二億円の資金手当てまでの説



明は聞くことができなかつたが、ぜひ慎重な計画を立てこの大事業を成功させて欲しいと願うのは私だけではないと思う。

笠野小学校長からも卒業生への募金依頼書をいただいた。早速、同窓会役員の皆様と相談して、できるだけの協力をせねばならぬと考える。諸兄の暖かい理解と力強いご支援を切望する次第である。

### “平和学園”新講堂建設

にあたり

S 34卒 山口洋一郎

今年三月頃、小学校同期のIさんから、思い出深いあの講堂が、取り壊わされるという知らせをもらいました。

あの講堂は、卒業して三十年経た今も、唯一、昔の面影を残していた建物でした。住まいは、通学していた頃と同じで、念願の設計事務所も茅ヶ崎に開設いたしました。その関

係で付近を通る機会も多く以前、松林に点在していた木造校舎の跡に建った事務所棟の奥、あの講堂に眼を移しますと、当時の平和学園のたがずまいが生き生きと甦ってきます。

毎朝、講堂で礼拝をし、クラスの人と共に渡り廊下を歩いていきますと、学び舎を囲むアカシヤや松林には、爽やかな風が吹き渡り小鳥の囀りを耳にしながら砂山の中にある木造教室に着きます。

今、思えば、随分と豊かな自然に恵まれ、縦横無尽に遊び、自由で、かつ家庭的な雰囲気の中で学ぶことができたという気持がいたします。

十数年前に建てられた現在の小学校校舎を訪れますと、以前と同じように、裏の“砂”の運動場で生徒達が楽しそうに遊んでいる様子を垣間見ますと、平和学園の校風は変わっていないなと感じます。

この度、あの講堂の

建て替えを中心に、私共が設計をさせていただく事になりました。母校の建て替えに携われることは、大変光栄なことで、只々嬉しい限りです。

設計にあたりましては、自然とのハーモニーを重点にし、家庭的な雰囲気を作成していただけるように、特に講堂は、平和学園の建学の精神であるキリスト教のこころを学ぶ学校の核となる施設ですので、豊かな空間を持てるように、そしていつまでも学び舎の思い出をお互いに語り合えることのできる、メモリアルな建築を創り出したいと考えています。

つきましては、卒業生の皆様、在校生及びご父兄の皆様、新しい講堂が、あの講堂と同じく、いやそれ以上に末長く平和学園のシンボルとなりますよう、ご協力をお願いし、あわせて設計にあたる私共への叱咤激励を切に希望いたしております。

私の中の「平和」

S 45卒 尾崎 隆

私にとつての「平和」はその全てが出会いであったように思います。

まず、ダルマストーブ。うまく火を着けないと、煙ばかりで少しも暖かくなりません。授業中に煙突がつまり、教室中が煙でいっぱい。勉強にならないこともあります。

でも、そんなことが、とても自然な毎日でした。その毎日の始まりに行われる礼拝。讃美歌に始まり、聖書朗読、先生のお話、そして讃美歌に終わります。

この讃美歌との出会いは、今の私の「音楽」の根幹になつていのように思えます。不思議なことに、私の気に入つた讃美歌の多くは、作者不詳のものでした。でもそれらは全て素朴なメロディーに美しい詩。そして、講堂で奏でられるエレクトーンと、六年生の二部合唱

がリードして、小学校の先生・生徒全員かつくり上げるハーモニー。それらがあいまつて「手づくり」のあたたかみを帯びていました。今でも、ふと讃美歌のメロディーが口をついて出てきます。その時はいつも、あの小学校の講堂の中でのあのハーモニーが耳によみがえっています。

「平和」での最大の財産はクラスメイト達との出会いです。そのみんなとは、今でも一二年ごとにクラス会で会っています。この時は、会ったその瞬間からあの頃にタイムスリップしています。

そして、いつも思い出するのは、六年生の時の講堂のワックスかけです。入口の部分特に念入りにみがき、翌朝そこで何人ころぶかを見たのしみにしたり…。正に悪ガキの頃でもありました。

その講堂がこの度改築されるとか…。感慨無量です。時が流れて行く中で、皆住む場所も異にし、考え方

生き方までもが変化する。今この講堂改築の話をうかがった時には、そのままだ残せないのか」と直感的に思いました。

しかし、私達の心の中の講堂は「平和」はかわりません。かえられませんが、新しい講堂になつて、そこを原点として、また多くの卒業生が巣立って行くことを大いに期待いたします。

卒業生の気持ち

32年卒 小池 毅

講堂が消え、横哲さんが定年になり、私達が在籍していた頃の面影を残すのは砂のグラウンドと、松と、噴水池そして古いプールぐらいでしょうか。考えてみれば卒業以来、はや三十年も経ってしまっているのですから……。

先日横山先生の還暦祝いの名目でクラス会を開きました。卒業時四十名程でしたが、二、三の消息不明者を除き、皆健在。当日は三十名も出席しました。さすがに六年間同じクラス（一つのクラス）だった平和学園ならではの感心しました。六年間の思い出は皆様同様たくさんあります。

森君やひいちゃん冬にいつも涸れた田でドジョウを取つた事、勲ちゃん大津君達と騎馬戦や馬のりをやつた事、暗いプールの冷たい水が恐怖だった事、秋の運動会で中高と一緒にスウエーデンリレーをやつた事、横山先生がセノトしてくれたラジオでの初めてのラジオ講座、隣りのクラス（二級下）のニワトリを洋ちゃんと追いかけておこられた事、いつも裕ちゃんの家でおやつを食べてからの帰宅等々。五十嵐先生のピアノ伴奏で六年間毎日歌つた讃美歌と共に昨日の事の様に思い出されます。

さて、「朝日かがやく」で始まるPTAの歌を覚えていらっしやいますか。ホルンで吹くとよく合います。あの歌が私は大好きです。

あのメロディーが、明るくゆったりとした湘南の自然に融合している平和学園の気風をとでも良く表現しているからです。

ところで時代の流れでしょう。現在中学校は休校、そして小学校の人数も昔にくらべて少ないよう。卒業生としては林しいかぎりです。

聖書の和田(武信)さん、事務局の伊藤さん、PTA副会長の枝画ちゃん、一世の通っている森君、米山(大阪)さん等が頑張っていてくださるようですが、卒業生皆さんの応援を得て、新時代にも充分生きる平和学園の、あの何気ないうちにまあかぬけた、進歩的な気風を再度吹かせようではありませんか。

### 小学生の私

S 34卒 平井 博子

私は二年生、兄は四年生、東京から引越して来た私達兄妹は麦畑、砂地に松林

の広がる静かな小学校の転入生となりました。そしてしばらくの間、珍しい体験が続いたのです。キリスト教など無縁であった私は、讚美歌も知らず、聖書は見ただことも読んだこともなく大きな講堂での礼拝も初めて。同級生や上級生の歌う讚美歌の美しかったこと。牧師先生のお話が時に楽しく、時にむずかしく、時に感動的だったこと。小学校から英語を勉強していたこと。すっかり慣れて友達が出来始めると、お転婆娘とガキ大将、目立つ兄妹でした。勉強より遊びに熱中した。勉強より遊びに熱中した。校庭でカンけり、馬跳び、ゴム段跳び、三度ぶつけ、ボール投げ、等、休み時間ごと、下校後と暗くなるまで体を動かし遊びまわりました。勉強? やったのかなあ? でも熱心な先生方との出逢いがあり、上級生になる頃にはそれなりに机に向かっていました。

今でこそすっかりオーブンになった男女共々で、フィルムを見ながら話を聞く例の女の子の体のメカニズムの話。あの頃は修学旅行直前に葛生先生から「女の子だけに特別な話」という形でお聞きしました。その間、教室の外に出されていた男の子から「何を聞いていたの?」「しかられていたんだらう?」「女の子だけずるい!」……と質問され、はすかしい思いをしたものです。おませな私は、同級生の男の子に手紙を書いたり、家まで遊びに行ったり。今思うと懐しいことばかりです。

沢山の出逢いがあり、熱心な先生方と、これまた熱心な親たちにはさまれて、知らず知らずの間に、平和学園の子になってその後の生き方に、いろんな影響があったと思っています。思い出深いあの頃、小学生の私は「平和」の子で本当に良かったと思っっています。今でも夢の中に、あの頃の校舎、講堂、友達の顔が出て来るのですから不思議なことです。

### 木造効果

S 56卒 木部たか子

とにかく講堂は穴場であった。先生の監視が行きとどかない、利用が少ないおかげでゴミが少ない等々、掃除当番にとって好条件がそろっていた。各班ごとにジャンケンをして、勝った班が掃除場所にこの場所を取るのは無理からぬことであつた。そして、この勝者達は掃除の後、その場に『おぼけ屋敷』なるものをセッティングすることで、その日一日のうつぶんを晴らすことができたのである。

『おぼけ屋敷』は、まさに木造効果をフルに利用したものであつた。講堂の掃除当番の人達は、さっさと幕をひく。それから各役割分担を行うのだが、今考えると別に大したことはしていません。た

だそのプロセスが楽しかったのである。さて、そうしてからの友人達を、講堂内へ招待する。ここからである、木造効果が発揮されるのは……。まず、入ってくる時の戸が「ギギーッ」と一声を上げる。これだけで相手はゾッとするものである。それから、お経の声を聞いたり、ほうきで相手の顔や足をパタパタとくすぐったりするのだが、これも最初の恐怖感があるからこそうまくいくわけだ。その上、意外な音響効果として「ギシッギシッ」という音、足音が加わる。この音に合わせることも「ギシッ」と出すと、それだけで十やそこの幼子にとっては何ともいえない迫力を感じさせることができた。

この遊びも、やがて自然消滅していったが、講堂というと、神様と同じくらいあの頃の事が思い出されてちよっぴりなつかしい。小

弥生は三月のある日、小

学校の、あの小さなクラスの同窓会が行われた。だけれが、  
一講堂、なくなるんだってなあ。

と言った。  
「あ、そう。」  
私はポツリと答えた……。

私たちの心の故郷

S 37卒 木本 弘子

今年も六月に平和学園小学校でいっしょに勉強した仲間が集まってクラス会を開いた。ついこの間まで学校でいっしょに遊んでいたような気持でいるのだけれど、考えてみると卒業してもう二十五年余りたってしまった。平和学園の松林は昔と変わらないけれど回りの様子はずい分変わってしまった。私達の頃は車はほとんど走っていないかった。学校の近くの田んぼには白鷺がたくさんいたしその他はほとんど畑だった。季節の野菜畑や田んぼを見ながら通学した。私が学校

へ通う道の途中、元クイーンストアのあたりは三本松とあって、農家の人が使う牛が大きな松につながれて道のまん中に寝そべっていて、こわくて家まで帰ってしまった事もあった。

今三年生の長男が平和学園の小学校に通うようになり、学校の色々な行事に参加するようになったが、バザー、遠足、運動会、修学旅行等昔と変わらない行事もあるが、スケート教室、スキー教室、自然教室（これは昔の修養会らしい。）プレイデーと言って先生方親子みんなでゲーム、スポーツをやり、お昼は校舎の前庭で各家庭から持ち寄りの料理で立食パーティーという楽しい行事もある。子供達の遊びも昔とは少しちがってきているようだ。昔はドッジボール、缶けり、ポコペン、それに面白かったのがおかめさん。今はドッジボールの他サッカー、一輪車等が加わって人気があるようだ。けれど昔から

変わらないのは毎朝の礼拝の他にクラスの友達どうしの仲が良いこと、どんな子供も仲間に加えてとけ合っでしまし、弱い子供も皆でカバーしてしまし。学年を越えてよく遊び仲が良い。先生と生徒が気楽に何でも話せる。あたり前の学校のようだけれど、今の世の中を見渡すと、とても貴重な存在に見えてくる。こんな学校に子供を通わせる事ができて親として幸せだなあと思う。小さいけれど暖かい私達の心の故郷のような学校が、これからも卒業生をたくさん送り出し続けてほしいと願う今日この頃である。

親子三人の平和学園

武富 和夫

今から数十年も昔、茅ヶ崎にまだ自然が溢れていた頃、赤い屋根に真白な十字架をいたいた小さな講堂を中心に、校舎や寮が点在し、その前を通る人達にな

んとなく心暖まる、童話の世界のような学校がありました。小・中・高校全員合わせて二〇〇名たらずの、小さな平和学園でした。

毎朝、全員が講堂に集まって、讃美歌「心のおごと」から一日が始まりました。時には、親や先生から、理不尽に叱られたと言って小学生が、私達高三の教室に、とびこんで来て、彼等の相談にクラス中で真剣にのったこともありました。雪の降る日、足の不自由な高校のお姉さんを、小学生の小さな仲間達が、助けてお家まで送って帰ったことなど……。

そうして二〇年たって、私の娘が小学校に、お世話になりました。校舎がきれいになっていましたが、中・高は女子校になっておりました。でも小学校には、当時の先生がおられ、講堂の十字架はこわれてしまっていました。昔の様子がまだ残っております。それから五年後、下の男

の子が、お世話になった時、やっぱり昔と同じように、色々な友達があり、身体の不自由な子や外国から帰って来た子供など、皆が、いたわり助け合って育ちました。今、高三の彼に、「おい、平和学園で一番良かったことは？」ときいてみました。太郎の答は、「世の中に色々な世界が違ったり、考え方も違う人がいることを知ったこと」でした。

いくら、自分が正しいと思っても、それを相手に理解させ、自分と違う世界の人達のことを理解するよう努力することこそ、村島先生の平和への教育だと確信します。例えば小さくとも、先生も父兄も男子も女子も健康な子供も身体の弱い子供も、幼・小・中高みんな一緒に勉強していく、そんな平和教育が、時代の流れとはいえ、小さな講堂とともに失われて行ききょうなのに、寂しさを感じるこのごろです。



# 小学校の教室から

太郎のよみがえり

一年担任 碓井 忍

五月のある日のことである。虫が大好きな男の子達二、三人が、休み時間にグラウンドの土手の所で、とかげをつかまえてきた。

ちよっぴり得意そうな顔でしっぽを持ちながら、「このとかげ、オスなんだよ。かわいいなあ。」

「どれ、見せて、見せて、」と、一匹のとかげは、たちまちクラスの人気者となった。続いてもう一匹、メスのトカゲを他の子がつかまえてきて、あわせて二匹。

「先生、このとかげ、クラスで飼いたいなあ。」「飼ってみたいなあ。」と、二匹のとかげは、たちまちクラスで飼うことになった。

その日のうちに、話し合いて名前をつけた。オスは

そして、それから約10日間が過ぎようとしたある日のことである。

太郎、メスはリンリンと、まあステキな名前がつけれ

れ、一年教室の窓側の小さな家で飼われることになった。

休み時間になると、

「太郎、リンリン、」と呼びながら、一緒に遊んだり、口をあけてみたり、まるで仲間がふえたようだった。

ところが、世話をやきすぎてしまい、一週間ほどたった日、太郎が、そして次の日リンリンがぐったりして動かなくなってしまう。かわいそうに死んでしまったのである。かわいがりすぎたのであ。かわいがりすぎて死んでしまうことは、よくあることだが、元氣な男の子たちは首をうなたれ

黙々とお墓を作った。しばらくして行ってみると上で小さい山が作られ、かわいい木の十字架が立っていた。思わず私も黄色い

きんけいぎくの花を添えた。

「先生、太郎がね、生き返ったんだよ!!」

「えっ、まさか。」

「だってね、おはかの上を歩いていったんだよ。」

「どれ、見せて。」と見るとこのあいだより、少し太めのとかげを手に持っている。「ちがうんじゃない。」と、言いそうになるのを我慢して、「少し太ったみたいね。」

と言うと、「そうだよ。土の中でえいようをつけて、もどってきたんだ。」

「みんな、太郎が帰ってきたぞー、」と、大声で喜ぶ子供達。

一生きかえるはずがないでしょ。」と言いついになる言葉をおさえながら、子供達の顔を見ていたら、なんだか私もそのとかげが、生き返った太郎であるように見えてきたから不思議である。

一年生十六名、その新鮮な輝きの中で生活すること

は、驚きと笑いの連続だが実に楽しい毎日である。

すいえいきょうしつ

一年 つくいあや

せんせいあのね

きょうは、プールにいけないよ。こいけさんやえびはらくんは、はいれなくてさんねんだったけど、わたしはいっぱいあそべたよ。

まえば、かおをあらうときせんめんきにかおをつけてたけど、プールのみずにかおをつけることができなかつたんだよ。へんだね。

でも、きょうはかおをつけてられてよかった。こんどは、およぐのができるよになりたいな。

「先生あのね」からツベリクリン

二年 おそねひとし 先生あのね。きょうツベリクリンのちゅうしゃをうってはりを見た。そうしたらはしをななめにきつたみ

たいだった。それと竹やりみたいだった。

くらいどころ

二年 山口えりや

先生あのね、くらいとてろってすき？ ぼくは、だいたいが出るかもしれないからだよ。だからくらいなの。みんなもくらいだろって思うよ。ぼくはね、みんなの中で一ばんくらいだよ。先生はくらいとてろくらい。ぼくは、先生よりくらいと思つよ。

自然教室

三年 野村 明伸

ぼくは、金時山に登った。岩がゴツゴツあって、すべっておしりに青あざができた。山のちよう上はずきり雨と風で、寒くてすぐ茶やに入った。みんなも寒くてふるえている人が二、三人いた。そのうち先生が

「もう帰るから中へはいっ  
ちゃダメ」と言ったから、  
外に出て記ねん写真をとっ  
た。またレッツ・トライ。  
帰りは行き道とちよつと  
ちがって、あまりけわしく  
なくて階段が多かった。  
帰りのバスの中でも立って  
いたので、つかれて声が出  
なかった。

わたしのお母さん

四年 伊藤麻紀子

わたしのお母さんはわた  
しも入れて、子供を四人も  
産みました。だから疲れが  
たまって、たまに熱を出し  
ます。また、ドジをします。  
お魚を買いに行った時、お  
母さんは私にまちがって魚  
の名前を言ってしまうまし  
た。わたしがその魚を買っ  
てくると、お母さんはおこ  
るのです。そして、お母さ  
んがまちがったのを知ると、  
「あっ、まちがっちゃった。  
ごめんね。」  
とごまかすのです。でも

そんなおもしろいお母さん  
だいです。

一輪車に乗れた

五年 清水千穂子

校長先生から一輪車が学  
校にはいると聞いて、私は  
びっくりしました。どうし  
てかというが一輪車という  
ものは、サーカスで使うも  
のだと思っていたからです。  
それに、私たちが乗ってい  
いのかと、少しうれしいう  
うな不思議なような感じが  
しました。

私は放課後、いっしょう  
けんめい練習しました。で  
もうまく乗れませんでした。  
ある日、いつものように  
一輪車に乗ろうと思って乗  
りました。ペダルをふみし  
めて、いつものようにやり  
はじめました。  
「足がとまらない!!」  
というような感じがしたら  
乗っていたのです。うれし  
くて、うれしくてたまりま  
せんでした。

あと一年

六年 岩倉 具威

この前まで、五年生だっ  
たのに、と、ぼくは思った。  
それに、五年生の始まりか  
ら終わりまでの一年間が、  
あつというまだったので、  
この六年生生活もすぐ終わ  
りだと思つと、あせつてし  
まうようだ。

けれど、実際は、長い六  
年生生活なんだから、しつ  
かりとやらなければならな  
い。  
六年生は、一番上の学年  
ともあつて、自然教室の時  
には、班長になったりして  
みんなの中心になつていろ  
いろ大変だと思つ。しかし、  
がんばらないといけないと、  
ぼくは思つている。



平和学園の四季

主任 野口 凱子

- 4・8 入学式
- 4・27 創立記念日
- 4・29 春のプレイデー
- 在校生・卒業生・保護者を  
交えての楽しいゲームと  
立食パーティー。
- 5・9 母の日礼拝
- 従来は、子供からの絵、  
作文の発表でしたが、今  
年は、お母さんのメッセ  
ージもいただきました。
- 5・25〜27 自然教室
- 東山荘の緑の庭で、カレ  
ーづくり。味も上々。
- 6・5 授業参観
- 6・22〜25 六年修学旅行
- 東北方面
- 7・7〜15 水泳教室
- ひと昔前は、林間プール  
で、今は、小和田・チサ  
ンプールで練習です。
- 7・11 防災訓練(2)地震  
保護者参加で、児童引き  
取り訓練をしました。
- 7・15 児童会のオセロ、  
将棋大会。その他、ドッ  
ジボール、一輪車乗り大  
会をしました。
- 9・19 運動会
- 父母競技がふえて親子の  
楽しいスポーツ・デーで  
す。卒業生もどうぞ。
- 9・26 児童募集のための  
公開授業と学校説明会
- 10・1〜29 入学願書受付  
学齢期のお子様のいらっ  
しやる方、「存在感」の  
ある「平和の子」を、お  
考え下さい。
- 10・24 学芸会、バザー
- 今年、音楽部門の発表  
と学習展示の二つです。
- 10・30 63年度入学児面接
- 11・9 読書感想文発表会
- 11・24 収穫感謝礼拝
- 12・12 クリスマス礼拝
- 12・18 おもちつき
- お父様方の力強いきねの  
音とつきたてのおもち。
- 1・9 書き初め大会
- 2・15〜18 スキー教室
- 3・1 マラソン大会
- 波うちぎわのサイクリン  
グコース。富士山をなが  
めながら、1km、2kmに  
分かれて完走。気分は最  
高です。
- 3・18 第七十一回卒業式

## 横山先生を囲んで

S 32卒 和田扶実子

## 平和で三十九年

横山 哲夫

横山先生の還暦のお祝と平和学園での二七年間の御苦労さん会をかねて、四十回卒業生は、又々小池さんのお宅に集まりました。

いつもの事で午前十一時より夜十時半頃まで延々とおしゃべりをするわけです。

お酒が入るにつれて、いつの間にかおじ様おば様はギャングエイジにもどっていたすらグループに分かれて小学生の顔になっていくのは何なのでしょう。

毎回の出席率も良いとなると『小学校のクラス会ですって!!』と不思議がられます。

特に今年は横山先生を囲んだ、こんな会が多くもたれた様です。

クラス会を持つたびに、平和学園のよさを思わされます。

茅ヶ崎にはじめて来たのは昭和二十三年でした。五月の末に来て村島先生にお目にかかり、すぐ採用とまりました。よくまあ私みたいな者をと今でも感謝しています。

ちゃんと勤めはじめたのは六月九日と日記には書いてあります。そのころ小学校はまだ白十字会林間学校といっていたと思います。

職員室の奥の部屋に残っている古い出席簿の表紙には

そう書いてありますから。中学校は、三年生はまだ女の子にだけして。一二年には男子が半分くらいいます。

高校はその時一年生が四五人いたようなないような、記憶がはっきりしません。

初めに持たされたのが中学三年の理科と、二年の数

学もやったような気がします。中三の女の子が大人っぽく、なんかまぶしいような気がしました。

その年の夏が大へん暑く晴天続きで、七月の初めから九月の初めまで、林間のプールで泳いでいました。そしてまた夜の星空がものすごくきれいでした。林間の噴水池の前から見ると、

今の本館のあたりに建っていた記念教室の屋根の上

さそり座や射手座が上り、そこへ向かって天の川が、講堂の上から流れこんでいるのがはっきり見えました。星が好きなものですからすっきり気に入ってしま

い、一生この先生をしていてもいいなと思いました。

音楽の五十嵐礼子先生が私を夕飯によんで下さって

その時お目にかかった先生のお父さんの五十嵐健治さん

から、若い時ロンドンで買って来たという望遠鏡を貸してもらいました。それで射手座のM8、M7などは初めて見たのかな。一緒

に貸していただいた野尻抱影の本をたよりに、レバートリーは次第に広がっていききました。望遠鏡は十五年くらい前、ニコンの八センチを買いました。ゆうべも

横浜の家の庭で、ケフェウス座の二重星、ベータをはじめて見たりして喜んでます。

その五十嵐さんに出会ったことから、キリスト同信会という、今の教会へ行くようになり、それだけが今

も続いています。おかげで今日日曜日は茅ヶ崎の教会です。一人、先生に一人います。まさかこんなことになるうとは、三十九年前は

それこそ夢にも思いませんでした。神さまのなさるところとは不思議です。

音楽の五十嵐礼子先生が私を夕飯によんで下さって

その時お目にかかった先生のお父さんの五十嵐健治さん

から、若い時ロンドンで買って来たという望遠鏡を貸してもらいました。それで射手座のM8、M7などは初めて見たのかな。一緒

## あとがき

増淵一横山

今まで六回私が書いたでしょうか、今度は増淵先生がやってくれることになりました。けれども先生はこの夏アメリカの日曜学校のサマーキャンプに頼まれて行くことになり、編集後記だけは私が書くことになりました。

増淵先生かやると原稿もすぐ集まり、テキパキと仕事が進みます。若いつていいものです。

講堂が無くなっちゃって建てなおすことになり、卒業生の山口洋一郎君が設計をしています。村島先生がそんな話聞いたら喜んで下さるでしょう。かなりナウイことを彼は考えているようです。来年秋にはでき上るでしょう。そうしたらまた久しぶりに全校同窓会をやります。



## 児童募集に対するご協力のお願い

同窓生及びご家族の皆様、PTA会員の皆様お変わりございませんか。

今年度も十月の児童募集期を迎え、ポスター掲示、近隣幼稚園訪問など応募依頼を開始いたしました。現在在籍児童は一三二名で、ここ数年児童数が毎年増加していることは、皆様のご協力によるもので心から感謝申し上げます。

今年度も皆様方のご協力によって、平和学園をご紹介いただき応募のおすすめをお願い申し上げます。本年度の児童募集予定は左記のとおりです。

願書受付 十月一日(木)～十月二十九日(木)

学校説明会及授業参観 九月二十六日(土)午前九時三十分より

選考日 十月三十日(金)午後一時より

合格発表 十月三十一日(土)郵送により

応募ご希望の方があれば必要書類をお届けいたしますのでご連絡ください。

「見よ子供たちは神から賜わった嗣業である。」 詩篇一二七篇三節  
今年はこのみ言葉に励まされ祈っています。

母校のため皆様のご協力をお願い申し上げます。

一九八七年九月

平和学園小学校長 笠野欣二

同窓生の皆様へ  
卒業生御両親の皆様へ  
PTA会員の皆様へ

# 土屋学園長先生のご召天を悼む

小学校長 笠野 欣 二

突然悲しいお知らせをしなくてはなりません。入院療養中であった学園長先生は、8月23日脳血栓のため73才をもってご召天されました。

先生はフェリス短大学長の要職を経られ、昭和51年より11年間平和学園理事長兼学園長として勤務され、本校を現在の姿に発展させて下さいました。「人間に序列はない。みんな平等だ」との信念のもと厳しくまた優しくご指導下さいました。

当初は小学校長を兼務下さった時代もありましたが、小学校の入学式、卒業式の祝辞は勿論、運動会学芸会、バザー等には必ず出席して励まして下さいました。小学校の応募者激減の時代も、小学校の信頼を回復することが第一だが、あせらず努力すれば児童は必ず集まると暖かく見守って下さり、お言葉どおりになりました。また多くの障害児を持つ時代、特別指導の必要をお願いした所、障害児教育専門の講師の先生を4人採用下さり、経済的には大変な負担にかかわらず一日お預りした児童を温かい手をさしのべて卒業まで見守って下さった愛の先生でした。

最後に講堂の取り壊しに伴い小学校建築の問題が生じた時、先生は病床から小学校建築に対する全面改築の夢のようなビジョンを示して下さい、そのビジョンに沿って第一期工事が近く進められる予定です。職員の一致をもって遂行するよとの言葉を託され、実現を見ないでご召天され残念でなりません。9月12日（土）午後2時より学園葬を賀川・村島記念講堂で取り行い先生の残されたご功績と偉大なお人格をお偲びいたしました。

## 小学校同窓会総会を久々に開きます

10月24日（土）は小学校の学芸会（午前）とバザー（午後）ということですので、みんなで小学校に顔を出してみませんか。

総会は記念講堂で1時より2時まで行います。その前後クラス会をするなり、学芸会やバザーに顔を出すなり、バラエティーに富んだ楽しい1日をどうぞ！

詳細は又後ほど連絡いたします。

小学校同窓会より